

地球を守りながら
農業を行う「みどり認定」

町内6事業者が認定

「福島県環境負荷低減事業活動実施計画認定（通称…みどり認定）」に、（株）R I S E S A P E U R^{ライズサプール}、（有）さんべ農園、（株）伊南川、馬場由人、（同）ねっか、（株）新国農園の6事業者が認定されました。

みどり認定は、「環境と調和のとれた食糧システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」に基づき、環境負荷低減事業活動に取り組む事業者を認定する制度です。

認定された6事業者は、秋耕の実施などを通して環境にやさしい農業に取り組みます。



▲J A会津よつばで行われた認定証交付式に出席した（有）さんべ農園、（株）伊南川、（同）ねっか

地産地消で里山整備

只見町薪ステーション 一般見学会 開催

只見町薪ステーションの一般見学会が6月29日に杉沢地内の現地で開催されました。

見学会では、町薪エネルギー推進室の紙谷特命参与から事業概要の説明が行われた後、運営管理を行う只見町森林組合の山内代表理事組合長が施設の紹介を行うと共に「皆さんのお力を借りながら、皆さんの必要ものを供給できるように進めたいと考えています」と話しました。

当事業への関心を寄せる町民は多く、当日は50人を超える参加者となりました。



▲薪割り機の運転を見学する参加者

来年度開園にむけ意見交換を行う

認定こども園に関する 住民懇談会 開催

「只見町認定こども園」に関する住民懇談会が7月17日に朝日公民館で開催されました。今回は、参加者を限定せず、未就学児の保護者以外にも、幅広く町民を募りました。

懇談会は、保育所の現状と課題や、認定こども園への移行による変更点、通園方法、今後のスケジュールなどについて、事務局から説明・報告後、質疑応答（意見交換）が行われました。

詳細については、只見町ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



▲意見交換の様子

只見町を研究する

学術調査助成金事業 テーマ・研究者が決定

令和6年度「自然首都・只見」学術調査研究助成事業の助成対象者が決定しました。

当事業は只見町の自然環境・生物多様性、歴史、民俗、産業に関する調査研究をおこなう者に対して助成し、それらの価値を科学的に明らかにすることで「自然首都・只見」ブランドの向上をめざすものです。

助成研究者はブナセンターと連携し、ブナセンターの腕章等を付けて調査研究を行います。

No.	研究テーマ	助成研究者代表	所 属
1	アカミノアブラチャンの遺伝的特徴の解明	森口 喜成	新潟大学 農学部
2	只見とは何か—その歴史的形成を探る—	赤塚 公生	奥会津越後交流史研究会
3	只見地域におけるキタゴヨウ群落の立地環境・林分構造と個体群維持のメカニズム	近藤 博史	横浜国立大学 大学院
4	只見の民具にみる樹種選択の伝統的知識の再評価	井田 秀行	信州大学 教育学部
5	環境DNAを用いた只見町の奥地における魚類多様性評価	村上 弘章	東北大学大学院 農学研究科
6	森林の育成過程で発生する間伐材による只見町内エコシステムの構築と課題	大橋慎太郎	新潟大学 農学部